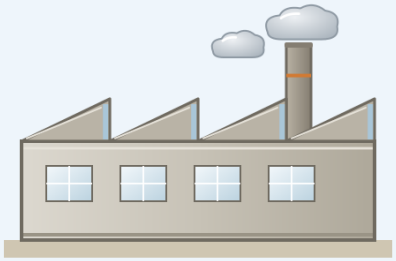
列強はなぜ植民地を広げたのか（動機と植民地の変化）

19世紀の終わりに、列強はなぜ植民地の獲得を競い、植民地とされた地域では何が変わったのか

列強（工業化が進んだ国）

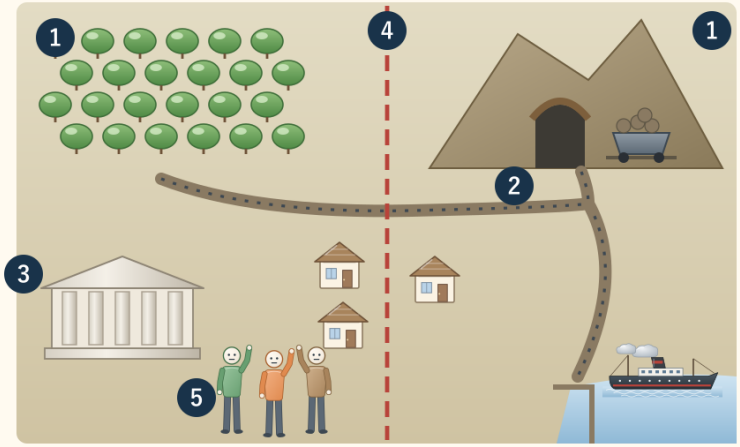


科学技術が進み、経済力と
軍事力が強まる

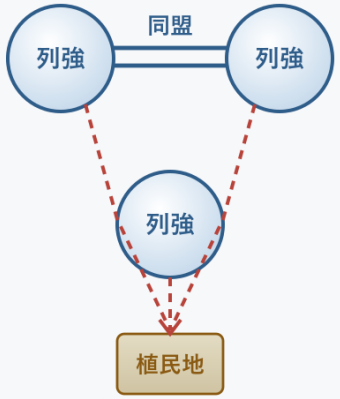
求めたもの

- 原料を手に入れる
- 製品を売る市場
- 資本の投資先
- 航路の拠点・軍事

植民地とされた地域（架空・模式）



列強どうしの関係



植民地の取り合いと軍事の同盟

植民地とされた地域で起きた変化（上の絵の番号）

1 輸出向けの作物

輸出向けの作物の畑
や鉱山が広がる

2 鉄道

鉄道は、内陸の産地
から港へ向けて
敷かれる

3 言語や制度

宗主国の言語や
制度が持ち込まれる

4 境界

住民の意思と関係
なく、境界が
引かれる

5 抵抗や運動

支配への抵抗や、
民族の運動が
起こる

19世紀の終わり、工業化が進んだ列強は、原料や市場などを求めて、アジアやアフリカで植民地の獲得を競った。植民地とされた地域では、くらしや社会が大きく変わり、支配への抵抗も起こった。

考えよう：列強どうしの関係と、植民地とされた地域の変化は、どのようにつながっていたか。

※ 模式図。植民地とされた地域の絵は架空で、地図ではない。実際の国・植民地の位置や境界は示さない。